

## 加工肉等に対するIARC（国際がん研究機関）の発表について

（公益財団法人食の安全・安心財団平成27年 10月29日）

- 1, WHOの下部機構であるIARC（国際がん研究機関）は、26日、加工肉を「ヒトに対して発がん性がある」、red meat（報道は赤肉と訳していますが、牛肉、豚肉、羊肉などを指し、日本語でいう霜降り肉の対義語ではありません）を「ヒトに対しておそらく発がん性がある」に分類すると発表したとの報道がされましたが、この情報で過剰な対応は必要ありません。
- 2, IARCの分類は、「発がん性を示す根拠があるかどうか」を重視しており、ハザードの毒性影響の強さやばく露量が及ぼす影響（定量的な評価）はあまり考慮されていません。  
一方で、食肉は健康維持に必要な栄養源として大切な食品です。
- 3, 今回の評価をもって、「食肉や加工肉はリスクが高い」と捉えることは適切ではありません。食品のヒトの健康への影響については、リスク評価機関における十分なデータに基づいたリスク評価を待たなければなりません。
- 4, 日本の食品安全委員会は、「健康な食生活を送っていくためには、様々な情報に振り回されず、多くの種類の食品をバランスの良く食べることが大切です」としています。  
また、国立がん研究センターも、「大腸がんの発生に関して、日本人の平均的な摂取の範囲であれば赤肉や加工肉がリスクに与える影響は無いか、あっても、小さいと言えます」としています。

### 【参考情報】

内閣府食品安全委員会の見解（公式 Facebook 掲載 H27. 10. 27）

赤肉・加工肉のがんリスクについて（国立がん研究センター H27. 10. 29）